

(備考 ○印は少、●印は多きを示す。)

ハヤアリ(新種)とイヘヒメアリ(新種)

歩行が恐ろしく敏速であると云ふ意味でハヤアリを *Paratrechina* (*Nylanderia*) *lonigicornis* (LATREILLE) に、家屋に住むヒメアリの一種と云ふ意味からイヘヒメアリを *Monomorium* (*Monomorium*) *pharaonis* (LINNAEUS) に和名として與へる事にする。

兩種とも世界共通と云はれて居る。そして又何れも人家船舶の中に往む煩い蟻として有名である。

最近佐藤覺君から因幡丸(近海郵船臺灣航路船)で捕へたと云ふ是等二種の標本を寄贈された。同君によると客室にまで入つて来るさうである。

曾て私は昆蟲世界二十八卷五十四頁にハヤアリを神戸市の或旅館で捕へた事と之は恐らく臺灣から輸入されたものだらうと云ふ事を報じて置いたが此度この種が因幡丸に居る事が明かになつたから前の私の推測は一層力附けられた事になる。

イヘヒメアリの方は臺灣には居るが内地ではまだ知られて居ない。然しそも前種と同様に恐らく既に内地の商港都市には輸入されて居る所があるだらうと思ふ。假令そうでなくとも將來入り得る可能性はある。

家屋の害蟲としての此の蟻は、Red house ant と呼ばれて澤山な報告が出て居るが、臺灣での様子について、臺南に居る私の一知人から聞いた話は、屋内で巣を造る場所は殆んど無制限と云つてもよいらしい、壁や柱の間隙はもとより、紙箱の中、暫く積み重ねて置いた新聞紙の間、使はずにしまつてある硝子のコップ乃至食器類の中、一番困るのは簾笥の中に入つて衣類の間に巣を造る事である。斯様な風であるから食物に寄り附いて煩い事はもとより云ふまでもない。

所が臺所には蚤が居ない。それは蟻が蚤の卵を食つてしまうからだと云はれて居るさうである。果してどうかは知らないが、有りそうな事であると思ふ。屋内に侵入して来る蟻は臺灣ではこの外にまだ澤山あるに違ひない。私の知る沖縄での事實から其を推測する事が出来る。

ハヤアリとイヘヒメアリの標本を私は沖縄からも得て居る事を終りに附記して置く。又日本に最も近い所では、兩者共に南支那の廣東から、後者は上海附近から、既に報告せられて居る(寺西暢)。

東京附近のツマキテフ

昨年九月頃東京日日新聞の通俗講話に出た松村博士の高山蝶の愛護といふ